

OBRIGADA PORTUGAL

Oita Japan Portugal Association

「オブリガダ」とは、ポルトガル語で「ありがとう」(女性が言う場合)の意味です

ポルトガル政府観光局のご紹介

近年、日本からポルトガルへの旅行客が大きく伸びたことから、旅行客の拡大に向けて東京に日本事務所を開設しました。局長に就任されたotto・オリヴェイラさんは、直近ではポルトガル政府観光局スウェーデン事務所の局長として8年勤務。北欧マーケットのプロモーションなどを担当していました。オリヴェイラ局長は日本に駐在し、日本と韓国市場を担当します。



otto・オリヴェイラ局長

皆様が訪れてくれることでその地や人々に活気が出て、より魅力ある地になっています。

日本の皆様はリスボンやポルトといったメインの町のほか、田舎の小さな村々を訪ねたいという方々が非常に多く、ポルトガルにとっては本当にありがたいことです。

ポルトガルの大きな魅力は、温和で親切な人々の笑顔です。ゆったりと時間が流れる安全な国ポルトガルで、どこか懐かしくほっとする時を過ごしていただ



「谷間の真珠」と呼ばれる美しい街 オビドス

オリヴェイラ局長よりコメント

日本とポルトガルの出会いは今から実に470年以上前になります。日本人が最初に出会った西洋人はポルトガル人で、ポルトガルから伝わった南蛮文化は日本文化に大きな影響を与えました。日本とポルトガルのこの美しいつながりは、日本の料理や言葉として今日まで伝えられています。この日本と縁の深い国を旅することは、日本の皆様にとって大変意義深いことだと思います。

北部から東部の山岳地方の小さな村々は「本当のポルトガル」といえる魅力があり、個人的にも好きな地域です。ポルトガルにも過疎化の問題があり、観光産業がなかったら寂れていくだけの村が、



「ポルトガルで最もポルトガルらしい村」モンサント

るに違いありません。

ポルトガルには伝統、文化、美食、歴史など様々な魅力があふれていますが、近年はモダンで洗練された雰囲気が加わり、新たな魅力が生まれています。

長い歴史に培われた数々の遺産、伝統と革新の融合がもたらした美味しい料理とワインの数々が、皆様のお越しを心よりお待ちしております。



2020年
3月発行



大分日本ポルトガル協会

■事務局
大分市企画部文化国際課 国際化推進室
■TEL / FAX
097-537-5719 / 097-536-4044

■住所
〒870-8504 大分市荷揚町2番31号
■Eメール
kokusai@city.oita.oita.jp

大分市医師会立アルメイダ病院が開院50周年を迎えました！！

大分市医師会立アルメイダ病院 開院50周年を記念し、令和2年1月25日(土)、ホテル日航大分オアシスタワー5階「孔雀の間」において祝賀会が盛大に開催されました。フランシスコ・シャヴィエル・エステヴェス駐日ポルトガル共和国特命全権大使をはじめ、多くの来賓、出席者が祝福しました。杉村忠彦大分市医師会長・アルメイダ病院長は「50年は通過点であり、今後100年に向けて、いつまでも消滅しないという意味の『百世不磨』をモットーに地域に貢献したい」と述べられました。

祝賀会では、50周年記念曲として作曲された「アルメイダの聖鐘」「南蛮天使アルメイダ」が、ポルトガルギターとマンドリンのアコースティック・ユニット「マリオンネット」の湯浅隆氏と吉田剛士氏により演奏されました。



ー「アルメイダ病院」名称の由来ー

日本に初めてキリスト教を伝えたフランシスコザビエルが、豊後(大分)を訪れた当時の府内、現在の大大分市には、貧しい人々や病人が多く、府内にやってきた宣教師たちは、こうした人々の救済に力をつき、1557年にはポルトガル宣教師で、医師でもあったルイス・デ・アルメイダが府内に初めての洋式病院を建てました。アルメイダ病院は、この「ルイス・デ・アルメイダ」を顕彰して名付けられました。

ポルトガルにおける新型コロナウイルス事情(3月17日現在)

ポルトガルにおける新型コロナウイルス(COVID 19)の影響について、現地に在住する方へのインタビューやニュースなどからまとめました。



【生活】

ポルトガルでは、新型コロナウイルス感染者が448人(3/17日現在)となっています。その20パーセントに当たる患者が医師です。3/17日には初めての死者(80代)が出ました。博物館、美術館、図書館、モニュメント、ほとんどの施設が休業しています。また、多くのイベントや行事が、中止または延期になっています。ある地域では、マンションの住民が同じ時間に外出しないように、犬の散歩の時間やスーパーに買い物に行く時間をお互いに話し合っているように通達が出ているようです。

【インフラ】

ポルトガルとスペインの空路、陸路、国境を接する川はすでに閉鎖されており、鉄道などの陸路での移動もストップされました(物流のみ継続)。現時点では4月中旬までの国境閉鎖が予定されているようです。また、リスボンのバスなどは、運転席から1メートルくらいはロープで仕切られ近づけなくなり、バスの出入りは後ろのドアからのみで、感染防止のためにストップボタンを押さなくてもいいように、各停留所に泊まるのが義務付けられているようです。



【医療】

重症患者に備えるために、ほとんどの大きな病院では、緊急性のないすべての手術を延期しており、感染リスクの高いお年寄りや持病を患っている人たちが危険にならないよう、必要な物をボランティアが代わりに購入し届けるサービスを開始するなど、サポート体制を構築しています。いくつかの病院では、治療用のテントを設置しており、国内の人工呼吸器の数が少なく限りがあるので、ポルトの病院では人工呼吸器を中国から輸入しているようです。

編集後記

今回の「オブリガーダ」は、いかがでしたでしょうか。

今年度は、新型コロナウイルスの世界的な流行により、ポルトガルからの訪問者や、大分青年会議所による「おおいた南蛮文化復活祭～食卓に広げよう!南蛮の彩～」など、各種行事やイベントが中止となりました。

新型コロナウイルスの感染者はヨーロッパでも拡大しており、ポルトガルも大変な状況です。こんな時こそ世界の国々が協力し、この難局を乗り越えることが必要だと感じています。

今回も、日本ポルトガル協会の会報誌『ポルトガル便り』のスクラップを同封しております。

事務局では、これからもポルトガルを知り、親しんでいただける情報を発信していきたいと思っております。

みなさまからの情報・お知らせなどがありましたら、ぜひ事務局までお寄せください。

★大分日本ポルトガル協会事務局★